



『ぼくらしく、おどる 義足ダンサー大前光市、夢への挑戦』  
大前光市／著 今井ヨージ／絵 学研プラス 2020

リオパラリンピック閉会式にも出演した大前光市さんは、プロダンサーとして活動を始めた24歳のとき、交通事故にあい左足のひざ下を切断します。それでも夢をあきらめず、自分らしいダンスを求めて努力し続けます。夢に向かって挑戦する勇気がわいてきそうです。



『月と珊瑚』  
上條さなえ／著 講談社 2019

勉強ができないことを恥ずかしいと感じた珊瑚は、日記を書くことを決意します。珊瑚の日記に描かれるのは、沖縄の子どもたちが今、目にしたり感じたりしていることです。子どもの貧困、学力の差、沖縄文化の継承、米軍基地問題など、様々なことが浮かび上がってきます。



『はじまりの夏』  
吉田道子／作 大野八生／絵 あかね書房 2020

ぼぶらは、エンゲルという名前のハムスターをかっています。ある日、母さんが、自分にもエンゲルのような相棒がほしいと言ってきました。母さんの相棒だった父さんは、ぼぶらが年長さんのときに、死んでしまったのです。ぼぶらは、父さんと話がしたくなって、思い出のプールに行くことにしました。



『庭づくりはひみつ！』  
カリナ・ヤン・グレーザー／作・絵 田中薫子／訳 徳間書店 2020

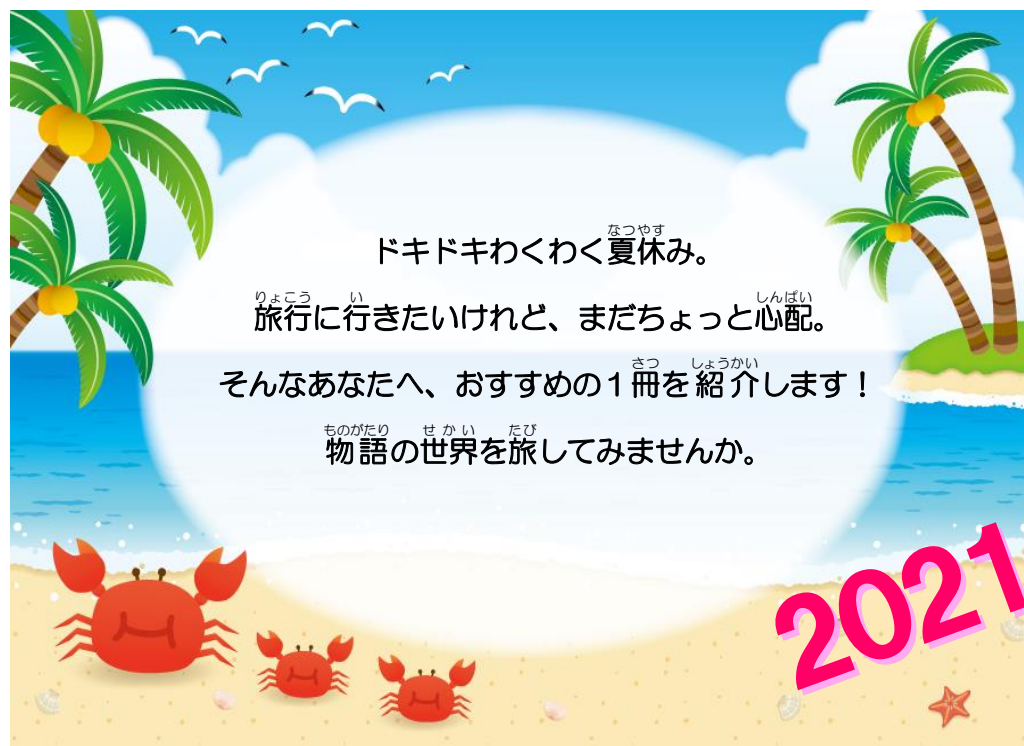
夏休みが始まってすぐ、上の階のジートおじさんが病気でたおれてしまいました。そこで、5人兄弟は、教会の空き地に庭をつくり、ジートおじさんのために庭フェスティバルをひらくひみつの計画を立てました。立ち入り禁止の土地で、子どもたちによるガーデニングが始まりました。



『朝顔のハガキ 夏休み、ぼくは「ハガキの人」に会いに行った』  
山下みゆき／作 ゆの／絵 朝日学生新聞社 2020

誠矢は、ばあちゃんと暮らしています。夏になると、毎年必ず絵ハガキが届いていました。ハガキをくれるのはどんな人だろう。謎の「絵ハガキ」の送り主に会うために、この夏、冒険の旅に出かけます。そこには、思いもよらない人物との出会いが待っていたのです。

# 夏の もう1冊



ドキドキわくわく夏休み。

旅行に行きたいけれど、まだちょっと心配。

そんなあなたへ、おすすめの1冊を紹介します！

物語の世界を旅してみませんか。

2021

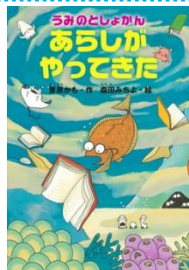
このブックリストは、出版社の許可を得て、表紙を掲載しております。 2021年7月  
発行：宮崎県立図書館こどもしつ 電話(0985)29-2596



### 『にんぎょのルーシー』

SOOSH／ぶん・え 高橋久美子／やく トゥーヴァージンズ 2020

ある日、エマはルーシーというにんぎょに会いました。エマは泳ぎを教えてもらい、ルーシーは自転車に乗せてもらいます。初めての経験をし、それぞれの良さを学びました。人種の違い、環境問題などと関わらないで仲良くなれることを教えてくれます。



### 『うみのとしょかん あらしがやってきた』

葦原かも／作 森田みちよ／絵 講談社 2020

うみの底にある図書館のお話です。お世話をしているのはヒラメ。本の修理が得意なブダイ。図書館が大好きで作家になりたい小さいイカ。空にあこがれるオコゼ、名探偵のタイなど海の生きものたちがやってきて、いろいろなできごとが起こります。4つの短いお話に分かれています。



### 『子うしのきんじろう いのちにありがとう』

今西乃子／作 ひろみちいと／絵 岩崎書店 2020

黒毛和牛のふゆこから生まれた子うしは、金色の毛だったので「きんじろう」と名づけられました。人間が食べるお肉になるのに、黒毛でなく金色なので、気味悪がられました。うしかいの母ちゃんとは、とてもなかよしでした。寒い冬の日、きんじろうとのお別れのときがきました。



### 『区立あたまでっぺん小学校』

間部香代／作 田中六大／絵 金の星社 2020

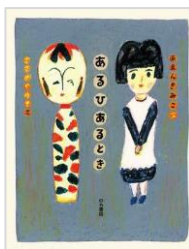
二期の始業式の日、小学2年生のリョウのぼうず頭の上に、小さな小さな小学校とキミドリの生きものが現れます。始めは、いやがっていたリョウですが、だんだんキミドリ君たちを理解するようになります。そして、ある日、いっしょに遠足に行くことになりました。そこで、ある事件が起こります。



### 『虫ガールほんとうにあったおはなし』

ソフィア・スペンサー／文 マーガレット・マクナマラ／文 ケラスコエット／絵 福本友美子／訳 岩崎書店 2020

ソフィアは、小さいころから虫が大好きでした。ところが小学校に入ると、それが原因でいじめにあいます。「虫をおやすみする」と告げると、お母さんは、ソフィアを励まそうと昆虫学者にメールを出します。すると、世界中から、励ましが届き、自信を取り戻すことができました。



### 『あるひあるとき』

あまみきこ／文 ささめやゆき／絵 のら書店 2020

第二次世界大戦中に、中国に住んでいたころの私の大切な友達、こけしのハッコちゃん。わたしとハッコちゃんは、すな遊びのときも、かぜをひいたときも、いつもいっしょでした。戦争が終わり、日本への引き揚げの日、ハッコちゃんをつれて帰ることはできませんでした。



### 『うちにカブトガニがやってきた!？ 生きていた化石とすごした1年と2か月』

石井里津子／文 松本麻希／絵 学研プラス 2020

海で、カブトガニの死がいを見つけたのをきっかけに、家族で夏休みの研究会に参加することになりました。そして、50個ほどのカブトガニの卵を、1年後の夏までマンションで育てることになりました。卵たちを「かぶこ」と名づけて、観察と飼育の毎日がはじまりました。



### 『ガリガリ君ができるまで』

岩貞みこ／文 黒須高嶺／絵 講談社 2020

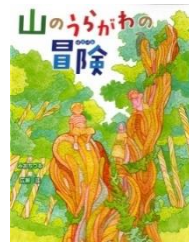
ナナミは、ガリガリ君が大好き。赤城乳業に入社し、「新しい味」作り挑戦します。なかなかうまくいかず失敗をくり返しますが、「食べたみんなを、笑顔にしたい!」とあきらめずにがんばります。ガリガリ君がどのように作られ、私たちのもとへ届くのかがよくわかります。



### 『氷室のなぞと秘密基地』

中谷詩子／作 よこやまようへい／絵 国土社 2020

春馬と哲平の夏の楽しみは、花さん特製のかき氷です。花さんから天然氷と氷室の話聞き、氷室跡の探検に行きました。そこで二人は不思議な光景を見て、秘密基地を作ることになりました。ところが、そこには、大事な歴史があって、守らなければならないことを知ります。



### 『山のうらがわの冒険』

みおちづる／作 広瀬弦／絵 あかね書房 2020

おばあちゃんの家で夏休みを過ごすことになった大樹は、山の裏側に住む「ヤマビト」の世界に迷い込んでしまいます。そこで、ゴンじいやガア、リンと出会います。自然から命をいただき、神さまを感じる暮らしは、驚きの連続です。そんなある日、大樹は、あばれグマに遭遇してしまいます。